

〈近世〉

そして江戸時代、 住吉は栄える

太平の江戸時代になると、住吉大社を中心とした観光地として人々が住吉を訪れ、また、南北朝や戦国時代の戦争絵巻の舞台として語られることで、一層、旅人の足を留める場所になります。観光名所としての住吉大社周辺と熊野街道、紀州街道沿いには人々の往来が絶えませんでした。

江戸時代の観光ガイドである『攝津名所図会』には当時の住吉の観光地が描かれています。

角鳥居と呼ばれる四角柱の柱は、大変珍しい

住吉区ゆかりのキャラクター 11
住吉詣での人々





すみ
「住よし反橋」
(長谷川貞信画／大阪城天守閣蔵)



すみよしたいしゃ そりはし たいこばし はし いけ うみ
住吉大社の反橋（太鼓橋）。橋のかかる池はかつては海につながっていた



ぶんか ねん つく ごほんでん だいいちほんぐう だいよんほんぐう
文化7（1810）年に造られた御本殿。第一本宮から第四本宮まである

あしゅうあいだまおおさかづみ いしどうろう
阿州藍玉大坂積の石燈籠



すみよししたいしゃ けいだい
住吉大社境内に、
こうかい ぶじ いの
航海の無事を祈つ
きなまえのね せんしゅなど
て北前船の船主等
おおが多くの石燈籠を
ほうのう
奉納した

だいかいじんじやほうのうふなえま
「大海神社奉納船絵馬」
(画：五代目長谷川貞信/
ほうのう かぶ 奉納：(株)コーニッシュ)

